

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立神野小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和3年5月27日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|---|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

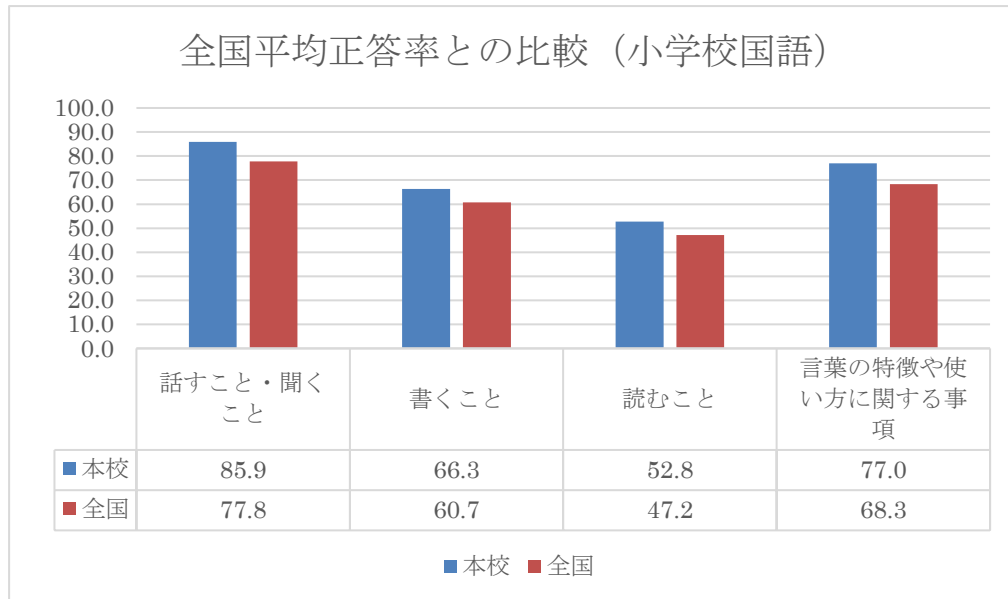
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域のうちすべての領域で全国平均正答率を上回っています。特に「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては、全国平均正答率を8ポイント以上も上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が8.7ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなすのが言葉の力であり、普段からの、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。

課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率49.1%は、全国平均正答率40.2%を上回っているものの、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

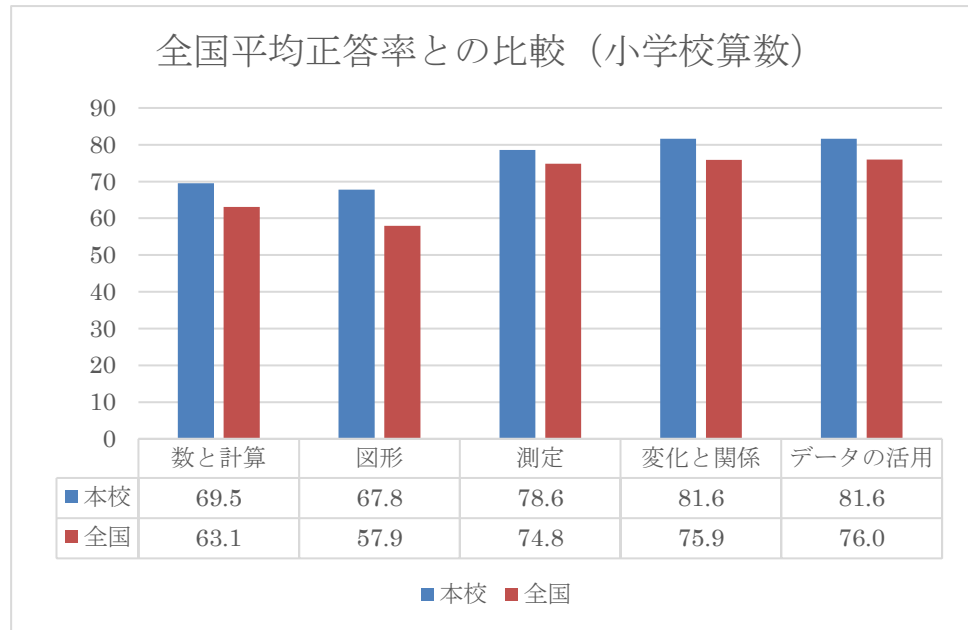
【学校では】

- 児童が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、児童同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や書店に定期的に行くことも、児童の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数(数学)



(1) 結果

すべての領域において、全国平均を上回っています。特に、「変化と関係」「データの活用」の領域では、8割を超える正答率となっています。また、無解答率を見ると、すべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「B 図形」の問題の正答率が全国平均正答率を9.9ポイント上回っていました。また、「D データの活用」の領域の、棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題の正答率も96.7%と高い正答率となりました。帯グラフで表された複数のデータを比較し、その割合を記述する問題の正答率が61.8%と、選択式や短答式に比べると低い点など、解答形式が「記述式」の問題で課題が見られました。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの家庭学習の様子やテスト結果等をご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使う機会が多くあるといいですね。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	78.9 %	85.8%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	41.5 %	38.3%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	55.3 %	55.0%
自分にはよいところがあると思いますか。	32.5 %	33.9%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	30.9 %	24.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	80.5 %	75.4%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	82.9 %	84.1%

朝食については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。

挑戦心の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	35.8 %	31.2%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	18.7 %	11.6%
「2時間以上、3時間より少ない」	19.5 %	15.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	35.0 %	35.6%
「30分以上、1時間より少ない」	17.1 %	24.5%
「30分より少ない」	6.5 %	9.5%
「全くしない」	3.3 %	3.5%
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	26.8 %	29.8%

家庭学習については全国平均を上回っていますが、まだ1時間未満の児童が3割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、新型コロナウイルス感染症拡大による児童の心理面への影響は大きな課題であるととらえています。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 毎月、「こころのアンケート」を実施し、児童の心の変化をとらえる機会としています。気になる事案には、すぐに対応できるよう、学校全体で取り組んでいます。これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 「家庭学習・生活の心得」を参考にし、家庭での「ひとり学び」の習慣が定着するよう、お子さんへの励ましと支援の継続をお願いします。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「情報通信機器の 家庭内ルール 掲示用プリント」をご覧になり、情報通信機器を家庭で使用する際のルールづくりや、ルールの再確認にも使用してください。